



新世纪高职高专
日语类课程规划教材

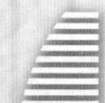
日本概况

新世纪高职高专教材编审委员会 组编

主编 朱丽颖 刘 峰



大连理工大学出版社
DALIAN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY PRESS



新世纪高职高专
日语类课程规划教材

新世纪

日本概况

新世纪高职高专教材编审委员会 组编

主 编 朱丽颖 刘 峰

副主编 王 霞



大连理工大学出版社
DALIAN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

日本概况/朱丽颖,刘峰主编. —大连:大连理工大学出版社,2009.10
新世纪高职高专日语类课程规划教材
ISBN 978-7-5611-5153-2

I. 日… II. ①朱… ②刘… III. ①日语—高等学校:技术学校—教材 ②日本—概况 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 180654 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 邮购:0411-84703636 传真:0411-84701466

E-mail: dulp@dulp.cn URL: <http://www.dulp.cn>

大连金华光彩色印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:185mm×260mm	印张:8	字数:183 千字
	印数:1~3000	
2009 年 10 月第 1 版		2009 年 10 月第 1 次印刷

责任编辑:梁 勃

责任校对:郑艳茹

封面设计:张 莹

ISBN 978-7-5611-5153-2

定 价:19.80 元

总序

我们正在推出的高职高专日语类规划教材,是大连理工大学出版社高职教育出版中心推动的新世纪高职高专教材编委会的又一新的标志性系列教材品种。

大连理工大学出版社高职教育出版中心,是一个目标远大,追求卓越,并且肯于为自己的追求满腔热忱地付出长期坚忍不拔的努力的事业型出版者团队。

中心自 2001 年成立之日起,即以推动高职教育发展为己任,通过推动高职教材建设推动高职教育发展是我们的不懈追求。一直以来,我们始终走在高职教材建设认识与发展的前列,所取得的高职教材建设成就有目共睹。

我们之所以有如此远大的目标追求,主要是基于我们对于高职教育发展的前瞻性认识。因为在我们看来,高职教育的崛起,不仅是我国高等教育变革 20 多年来最重要的成果,而且其最终必将会改变我国高等教育发展的方向。其所以如此,乃是由于我们深信:一切所学,皆为所用。在一个理性运行的社会状态下,高等教育培养模式必然会合理地分为培养应用型人才(面向社会发展的现实需要)的高等教育和培养研究型人才(面向社会发展的未来需要)的高等教育,而培养应用型人才的高等教育(应用型中专教育、高专教育、本科教育、研究生教育)最终必将会成为我国高等教育人才培养模式的主流形式。把握住这样一个历史机遇,实现一个出版者的人生价值与事业目标,并为之付出满腔热忱与全部努力,是值得的。

不仅如此,我们为实现这一事业目标所付出的努力及其所完成的创新建树也同样不同凡响。为了使我们的理想目标得以实现,从而使我们的努力能够在高职教育发展进程中起到推进作用,我们探索出了能够将每一种教材都做成经典范本的运作思路,创新了教材建设理念,并以强大的意志力将其贯彻于每一种教材建设过程的始终;为了使我们的富有特色的高职教材最大限度地为广大高职院校所认识,所接受,并在高职教学实践中发挥推动作用,我们创新了市场运作模式,构造了覆盖全国的具有领先优势的市场推广体系,影响力正在逐步深入到全国各地;为了构造推动教材建设的强大动力基础,我们在公有制体制框架下完成了内部管理制度创新,并在此基础上,提出了一体化战略合作构想,以逐步整合一切与教材建设实现相关的力量,即出版者力量、作者力量、市场推广力量、终端用户力量,使之成为推动我们共同事业发展的合力。可以说,近年来在教材建设领域完成的所有重大创新,都与我们的努力密不可分。

六年多来,我们不仅成功地推出了包括公共英语类、商务英语类在内的数百种特色鲜明的高职教材,而且形成了日益显著的教材建设领先优势,彰显了我们在教材建设领域的非凡创造力。这一点,可以由我们的核心竞争力得到说明。我们知道,作为市场竞争力持续产生源泉的核心竞争力,必须同时具备两个不可或缺的条件,一是必须具有领先的优越性;二是必须具有不可复制性。我们核心竞争力的三个相互关联、不可分

割的组成部分如下:

- (1)能够将教材建设理念有效贯彻于每一种教材建设过程的统一意志;
- (2)编委会的强大感召力与凝聚力;
- (3)万众一心奔向共同事业目标的和谐、高效运行的团队。

从市场运行结果来看,我们所创造的持续、快速增长的出版奇迹及其强大发展后势,说明了市场对我们的认可与接受程度;普通高等教育“十一五”国家级规划教材高职高专类入选种数全国第七、2007年度国家级精品教材高职高专类入选种数全国第三的排名,可以作为我们教材特色与质量正在受到普遍认可、教材的品牌化建设正在走向成熟的官方佐证。考虑到我们的教材品种还相对较少(许多出版社拥有数千品种,而我们仅有几百种)、市场影响力形成相对滞后(许多出版社从专科教材做起,拥有多达几十年市场培育的历史,而我们仅有几年全国市场推进的影响力)等因素,可以推断,我们高职教材的质量与特色正在从总体意义上显现出全国领先的优势。

我们深信,一个如此追求、如此努力,同时又如此在教材建设领域拥有从运作思路到运作模式全面创新的领先优势的团队——我们的出版者团队和作者团队,以及我们所拥有的在公共英语类、商务英语类等教材建设过程中积累起来的成功经验,只要假以时日,我们就一定会在高职高专日语类系列教材建设过程中取得令所有高职教学单位值得期待的卓越成就。我们满腔热忱地持久努力的结果,就一定会在高职日语专业教学及其人才培养过程中起到积极的推进作用。

我们必将不负众望!

大连理工大学出版社高职教育出版中心

新世纪高职高专教材编委会

2007年8月

前言

《日本概况》是新世纪高职高专教材编审委员会组编的日语类课程规划教材之一。

编写本教材的目的是为了使日语学习者了解日本的国家概况。要学好语言单凭死记硬背是远远不够的,对语言国概况的了解是必不可少的。因为这方面知识若欠缺,会给日后应用语言进行交流和沟通带来很多麻烦和障碍。为此,我们在编写过程中尽最大努力对现代日本的地理、政治、经济、文化、教育、体育、宗教及风土人情、名胜古迹、旅游观光等方面进行了全方位的介绍。

本教材具有如下特色:

- 1.选材新颖。本书中收集的内容为最新材料。
- 2.图文并茂,简洁明了,通俗易懂,融知识性、实用性和趣味性于一体。为了便于学生理解与接受,尽量用简明扼要的语言编写,并在书中插入了大量的图片。
- 3.全面介绍,详略结合,重点突出。为了让学生对日本有全面的了解,我们在介绍日本国家概况时,采用对重点部分进行详细描述与一般性陈述相结合的方法进行全方位的介绍。
- 4.为便于日语初学者更加准确地理解与把握本教材的内容,我们在书后附有中文大意及补充说明。

尽管编者倾心而作,但书中难免有不尽如人意之处,敬请各高职高专院校和读者在使用过程中给予指正,并将意见及时反馈给我们。

所有意见和建议请发往:gzjckfb@163.com

欢迎访问我们的网站:<http://www.dutpgz.cn>

联系电话:0411-84707604 84706231

编者

2009年10月

目 次

第一章	にほん	日本のシンボル	1
だい	か	こっき こくしょう こくごう こっか こっか	
第 1 課		国旗、国章、国号、国歌、国花	1
だい	か	みんぞく もじ	
第 2 課		民族、文字	5
第二章	しぜん ちり	自然と地理	7
だい	か	しぜんじょうきょう	
第 3 課		自然状況	7
だい	か	にほんれつとう やま	
第 4 課		日本列島と山	9
だい	か	にほん かわ へいや	
第 5 課		日本の川と平野	12
だい	か	にほん ちせい しき きこう	
第 6 課		日本の地勢、四季と気候	14
第三章	ぎょうせい くい き こうつう	行政区域と交通	19
だい	か	にほん ぎょうせい くい き	
第 7 課		日本の行政区域	19
だい	か	にほん こうつう	
第 8 課		日本の交通	23
第四章	い しょく じゅう	衣、食、住	27
だい	か	い	
第 9 課		衣	27
だい	か	しょくじ	
第 10 課		食事	29
だい	か	にほん じゅうきょ にほんじん せいかつようしき	
第 11 課		日本の住居と日本人の生活様式	32
第五章	にほん ふうぞく しゅうかん	日本の風俗習慣	34
だい	か	にほん でんとうてき ねんじゅうぎょうじ	
第 12 課		日本の伝統的な年中行事	34
だい	か	つうか ぎれい	
第 13 課		通過儀礼	41

第六章	せいじ	政治	48
だい 第 14 課	か てんのう	天皇	48
だい 第 15 課	か せいじ しぐ	政治の仕組み	50
第七章	がいこう	外交	54
だい 第 16 課	か にちべいかんけい ちゅうにちかんけい	日米関係と中日関係	54
第八章	けいざい	経済	58
だい 第 17 課	か にほんけいざい ふつこう	日本経済の復興	58
だい 第 18 課	か にほん さんぎょう	日本の産業	59
第九章	ぶん か	文化	64
だい 第 19 課	か にほん でんとうぶん か	日本の伝統文化	64
第十章	きょういく	教育、スポーツ	71
だい 第 20 課	か きょういく	教育	71
だい 第 21 課	か スポーツ	スポーツ	74
だい 第 22 課	か にほんげんだいてき ぶん か	日本現代的な文化	77
だい 第 23 課	か にほん しゅうきょう	日本の宗教	79
第十一章	かんこう	観光	80
だい 第 24 課	か かんこう	観光	81
课文大意与拓展			88

第一章

にほん 日本のシンボル

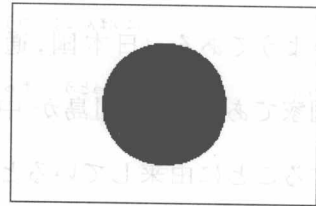
どの国にも自国の国旗、国号、国歌、国花というものがある。日本も例外なく、国旗、国号、国歌、国花という日本を象徴するものもある。また、和服、和室、和食、平仮名、片仮名、相撲などのような、日本独特な、日本のシンボルとも言える風物もたくさんある。

だい 1 課 国旗、国章、国号、国歌、国花

1.1 国旗、国章

日本の国旗は、法律上は日章旗と呼ばれ、日本では古くから、また今日一般的に日の丸と呼ばれる旗である。

中央の赤は日章(太陽)を象徴し、歴史上、初めて登場するのは、「続日本記」の中で天武天皇が登場する頃である。

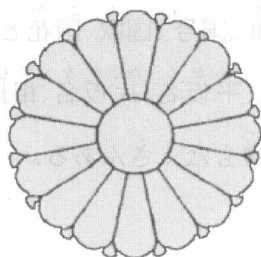


外国に対しても、江戸時代に幕府専用船であることを証明するために、「日の丸」が日本を代表する印として使われはじめた。正式な国旗制定は1870年で、明治政府によって日本の商船や軍艦につける海上旗として定められた後、日章旗は国旗として扱われるようになったが、「国旗」としての法的な裏付けは太政官布告のままであり、法令として存在しなかった。

1999年(平成11年)に至って「国旗及び国歌に関する法律」により法的に国旗

と定められた。国旗国歌法の本則における日章旗の制式は、縦横比を2対3、旗の中心(対角線の交点)を中心とし、縦の長さの5分の3を直径とした円(日章、日輪)を描くのが正式である。日章の赤は法律では「紅色」と、白地は「白色」となっている。つまり、旗の白地に赤く日の丸を染め抜いたものである。白色は純潔を、赤色は誠実を象徴している。国旗掲揚は祝日や卒業式、入学式、学校の朝礼等特別な場合に限っている。

それに対して、国章は菊花紋章の模様で、日本の天皇と皇室を表す紋章であるから、菊も日本を代表する花とされている。俗に「菊の御紋」とも呼ばれる。国章として法的に定められなかったが、菊花紋章は日本の天皇の旗や日本の発行する旅券の表紙によく使われている。



1.2 日本の国号

4世紀に中国から文字が入ってくるまで、自国の記録を持たなかった日本では、日本という国がいつ出来たかを特定するのが難しい。国号には「日本国」が通称として用いられるが、いつごろから使われはじめたのか、いつ国号として制定されたのかは日本国内歴史学者の間でも意見が分かれていて、定説はまだないようである。日本国、通称日本は、日本列島を主な領土とする東アジアの国家であり、日本列島が中国や朝鮮半島に対して東側、つまり日の本に位置することに由来していると考えられている。

「日本」という国号の成立時期は、7世紀後半から8世紀初頭の間だと考えられている。「日本」という国号が遣唐使によって中国に伝えられたが、国号として正式に定められたのは674年(天武3年)以後と推定されている。その根拠は『日本書紀』674年三月条の記事である。701年の大宝律令では「日本」という国号を用いており、大宝の遣唐使が「日本」の国号を称したことは諸資料に見られる。したがって「日本」の国号が正式に定められたのは資料的に確認さ

れる限りでは674年から701年の間である。制度的にはおそらくは、飛鳥浄御原
律令(689年実施)で、「日本」が国号とされていたのではなかろうか。

根本法令である憲法の表題には、『日本国憲法』『大日本帝国憲法』のように
「日本」という国号が明示されてはいるが、国号を日本国と直接かつ明確に規
定した法令はない。

明治時代から第二次世界大戦後までの国号は、日本、日本国、日本帝国、大日
本国、大日本帝国なども表記上は用いられたが、『大日本帝国憲法』成立後の
正式国号は「大日本帝国」である。戦後は「日本」「日本国」である。

1.3 日本の国歌

日本の国歌は『君が代』である。

1999年(平成11年)に国旗及び国歌に関する法律で公認される以前の明治時
代から国歌として扱われてきた。この曲は、平安時代に詠まれた和歌を基にし
た歌詞で、明治時代に林廣守が作曲した。

1880年(明治13年)、日本の国歌として『君が代』が採用された。『君が代』は10
世紀に編纂された『古今和歌集』に収録されている短歌の一つである。古今
集のテキストにおいては初句を「わが君は」とし、現在採用されている形と完
全な一致は見られない。『君が代』の型は『和漢朗詠集』の鎌倉時代初期の一本
に記すものなどが最も古いと言える。国旗及び国歌に関する法律(平成11
年法律第127号)は、日本の国旗・国歌を定める日本の法律であり、1999年
(平成11年)8月13日に公布・即日施行された。

1.4 日本の国花

日本の国花は桜か菊か法律的に定められていないが、桜は、日本を象徴す
る花として、日本人には馴染み深く、日本の代表的な風物であり、また、日本で
最も有名な花でもある。

その歴史が長く、日本最古の史書である『古事記』『日本書紀』にも桜に関する記述があり、日本最古の歌集である『万葉集』にも桜を詠んだ歌がある。その後の和歌にも桜を詠んだものは多い。また、桜は、俳句の世界でも、古くから春の季節語として用いられてきた。



平安時代までは和歌などで単に「花」といえば「梅」をさしていたが、平安時代から「桜」は人気が高まり、「花」といえば桜をさすようになった。現代では桜はもっと日本人に愛され、小中学校や商業高校などの校章をはじめ、警察、自衛隊などの紋章に多く用いられている。また、花の塩漬をお茶または湯に入れて茶碗の中で花びらが開くことから、祝い事にも使われる。婚礼や見合いなどの席では「お茶を濁す」ことが嫌い、お茶を用いずに桜湯を用いることが多い。

今日日本全国各地に桜の名所があり、春になると、日本人はお花見という習慣もある。ひとびとは桜の咲く木の下に集まって、賑わうという場面がいたるところで見られる。近年では、桜の開花については特にマスコミの注目を集める傾向があり、開花の時期にな



ると、職員の観察を複数のマスコミが取材に訪れる様子がしばしば見られる。桜の花が一つ一つ小さくて弱い感じを与えるが、たくさん集まると、とてもき

れいで^{ちからづよ}力強い日本人の精神^{にほんじん}を象徴^{せいしん}する。

第2課 民族、文字

2.1 日本の民族

日本は7000あまりの小さな島からなっている島国である。昔からこの細長い国土で暮らしてきた人々は、北海道にいる少数のアイヌ族のほかに皆日本民族(大和民族)と呼ばれ、日本に住む者のほとんどを占める。考古学者によると、日本には一万年以上前から人間が住んでいたと指摘される。そのころ日本は一部が大陸とつながっていたため、最初に日本に住んでいた人々は大陸の先住民の一部に当たったと思われる。その人類が現在の日本人の祖先であるか否かはいまだに定説はないが、専門家のほぼ一致した見解では、最初の日本人は縄文土器の文化を作った人々とされる。その後、中国、朝鮮半島、東南アジアなどからたくさんの人が日本に移住してそれぞれの文化を伝えつつ、次第に混血して現在の日本人になったのではないかとされている。

2.2 文字

現代日本人に使われている文字は漢字、平仮名、片仮名という三種類のほかに時々ローマ字が使われることもある。しかし、昔の日本には日本語はあったが、それは話し言葉だけで、表記法は何もなかった。中国や朝鮮半島から漢字という文字が伝わってきたのは3、4世紀の頃だと言われている。当時、日本人がこの便利なものを早速取り入れて、日本語に取り入れそうとした。それで、古代の日本人は漢字を使って自分の言葉を表そうとした時、漢字の意味にまったく関係なく音だけを借りて日本語を書き表した。このような日本風漢字の利用で『万

『ようしゅう 葉集』という日本にほんで一番いちばん古い歌集かしゅうが出来あがったので、こういう表記法に「万葉名^{ようがな}」という名前^{なまえ}がつけられた。しかし、それまで日本語にほんごというものが存在^{そんざい}している日本人にほんじんが自分たちの言葉^{ことば}を捨てて、外国語である中国語^{がいくこ}にかえてしまうことは出来^{でき}なかったという問題^{もんだい}が生^{しょう}じた。そこで日本人にほんじんは中国^{ちゅうごく}の漢字^{かんじ}を借りるが、日本語にほんごに都合^{つごう}のよい方法^{ほうほう}で使うことを考^{かんが}え出^だした。その結果^{けっか}、音読み^{おんよみ}と訓読み^{くんよみ}という二つの読み方^{ふたつのよみかた}を作^{つく}り出^だした。

以上^{いじょう}から分かるように、漢字^{かんじ}から万葉名^{まんようがな}という時代^{じだい}をとおって、片仮名^{かたかな}と平仮名^{ひらがな}が生^うまれた。片仮名^{かたかな}の「かた」は不完全^{ふかんぜん}という意味^{いみ}、平仮名^{ひらがな}の「ひら」は平易^{へいい}で易^{やさ}しいという意味である。片仮名^{かたかな}は8世紀^{せいき}から9世紀^{せいき}にかけて仏教^{ぶつぎょう}が最も栄^{もつとさか}えた時代^{じだい}に、僧侶^{そうりょ}が仏典^{ぶつてん}を研究^{けんきゅう}する時^{とき}、漢字^{かんじ}の略記号^{りやくきごう}として使^{つか}ったのがはじめだといわれている。平仮名^{ひらがな}は万葉名^{まんようがな}を非常^{ひじょう}に簡略化^{かんりやくか}してできたものである。片仮名^{かな}、平仮名^{ひらがな}が現行^{げんこう}のものに統一^{とういつ}されたのは明治33年^{めいじ ねん}(1900年^{ねん})のことである。

第二章

し ぜん ち り 自然と地理

だい 3 課 し ぜん じょう きょう 第3課 自然状況

3.1 い ち めん せ き 位置、面積

日本はアジア大陸の東にある島国である。北から、北海道、本州、四国、九州という四つの大きい島と7000あまりの小さな島からなっている。これらは日本列島と総称されている。広さは37万7800平方キロメートルで、世界の総陸地面積の0.3パーセントを占めている。四つの大きい島は皆トンネルや橋でつながっている。日本の東と南西には太平洋があり、アジア大陸と日本の間にはオホーツク海と日本海と東海がある。日本の西には、朝鮮半島や中国大陸がある。また、北にはサハリン、南には中国の台湾省がある。北の端から南の端まで約2400キロメートルで、細長い国である。



3.2 に ほん じんこう 日本の人口

日本の総人口は約1億2700万人ぐらいであり、中国、インド、アメリカ、イン

ドネシア、ブラジル、ロシア、パキスタンに次いで世界第8位である。日本の人口は江戸時代のおよそ250年間は約3千万人で、大きな変化はなかった。明治維新以後、産業が発達し、人々の働く場所が増えるにつれて人口も増加した。第二次世界大戦で一時減少したが、戦後再び増加し、明治から100年ほどのうちに約3倍に増加した。その上、毎年およそ100万人ほど増えている。国土が狭いため、今の人口密度は1平方キロメートル当たり335人で、世界で人口の最も密度の高い国の一つでもある。

しかし総人口の約40パーセント近くは、東京、大阪、名古屋を中心とした三大都市圏に集中し、地方の過疎化の問題も深刻である。ところが、2006年前後に日本人口のピークを迎えたあとは減少に転じ、2050年以降には一億人を割り込むと予測されている。その原因は近年、核家族化の浸透、女性の晩婚化や出産に対する意識の変化などで、人口全体の増加率は下がっているからである。人口が多いのは本州の太平洋側、瀬戸内海沿岸、九州北部のような気候が温暖で、早くから産業が発達した地方である。

3.3 日本の自然資源

日本は資源に乏しい国であり、ほとんどの地下資源は輸入に頼っている。その中、原油と鉄鉱石は99パーセント以上外国から輸入している。ところが、日本では、森林の面積が一番広く、全国土面積の約3分の2を占めている。気候が温暖で、雨が多いので木材の生育に適しており、世界でも指折りの森林国である。そのほか日本の周りには暖流と寒流が流れているので、魚の種類も量も大変多く、世界一の水産国だと言われている。また、周囲を海に囲まれた島国であることから、海上交通、漁業ともに盛んな海洋国家である。内海を含む領海、排他的経済水域などの水域面積は約447万平方キロメートルであり、国土面積の11.7倍にあたる。

第4課 日本列島と山

4.1 日本列島

今から数十万年も前は日本列島はアジア大陸の一部であった。そこは環太平洋造山帯に属する山地だった。その後、その造山帯では、火山活動が盛になり、富士山やほかの山がたくさんできた。陸地の一部が陥没して瀬戸内海や琵琶湖もでき、日本と朝鮮半島の間も海になった。その時から、日本は島になり、大陸とは陸続きでなくなった。このようにしてできた日本と大陸との間にある海や日本海は浅い海である。深さは200メートル以下の所も多い(深さは200メートル以下の所を大陸架という)。日本の東側にある太平洋は世界で一番深い海である。深海底の細長い溝状の地形を海溝という。日本の東側には、深さが6000メートルから10000メートルもある日本海溝がある。日本がこのような太平洋造山帯に属し、深い海に面した所にあることは日本に地震の多い理由の一つになっている。

4.2 日本の山

日本には山がたくさんある。富士山は高さが3776メートルで、日本で一番高い山であるが、そのほかにも、高い山が多い。特に本州の中央部には3000メートル以上の高い山がたくさんそびえている。この本州の中央部の山々はスイスのアルプスに似ているので、日本のアルプスとも言われている。山が続いているところを山脈という。日本の山脈は日本列島の真ん中を背骨のように続いている。このように、日本列島全体は海の中にそびえている山脈のようである。日本には火山がたくさんある。火山の中には富士山のように今は活動していな